思川開発事業（南摩ダム）計画にとって不都合な真実

ダム反対鹿沼市民協議会会員

思川開発事業計画とは何か

- １９６４年（４２年前）に基本構想発表
- 目的は、「大谷川（旧今市市）の水を南摩ダム（鹿沼市の南摩川）に導水して貯留し、東京都の水不足を解消すること」だった。
- 東京都は既に水余り状態である。
- ２０００年に大谷川分水は中止となった。
- 水需要もなく、供給も不能となった。

現在の思川開発事業計画の目的

①洪水調節（思川・利根川の洪水被害の軽減）

②水道用水の確保（栃木県、小山市、古河市、五霞町、埼玉県、北千葉広域水道企業団に３．２０２ｍ３／秒）→地盤沈下対策

③流水の正常な機能の維持

南摩ダムの諸元等

- 流域面積　　南摩川　１２．４ｋｍ２
  （大芦川、　　黒川から導水）
- 位　　置　　栃木県鹿沼市上南摩町
- 型　　式　　ロックフィルダム
- 堤　　高　　８６．５ｍ
- 総貯水容量　　約５１００ｍ３
- 総事業費　　１８５０億円

南摩ダムと導水路の位置

独立行政法人水資源機構思川開発建設所のホームページから

南摩川流量（夏）

南摩ダムサイト。２００４年７月６日撮影

導水される黒川の流量

２００３年１月撮影

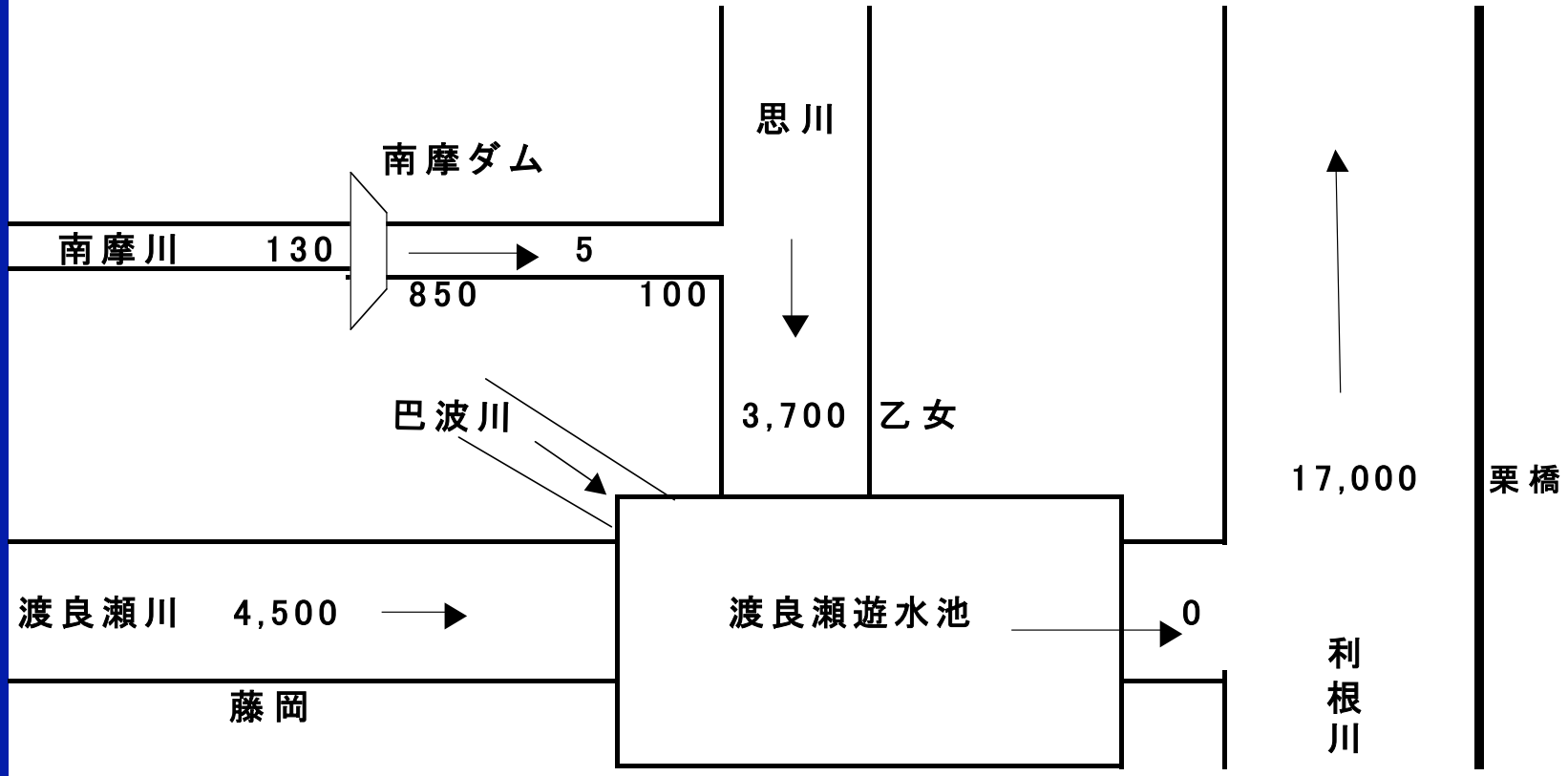
治水上無益である

- 南摩ダム地点の流域面積（１２㎢）は小さい。栗橋地点の流域面積（８５８８㎢）の０．１４％しかない。

- そもそも渡良瀬遊水地で思川下流への流出量をゼロにする計画であるため、思川の洪水は利根川・江戸川に影響を及ぼさない。

南摩ダムの流域面積：12km2
乙女地点の流域面積：760km2
栗橋地点の流域面積：8,588km2

単位　m3／秒



思川の治水計画（1980年の工事実施基本計画）（100年に1回の洪水）

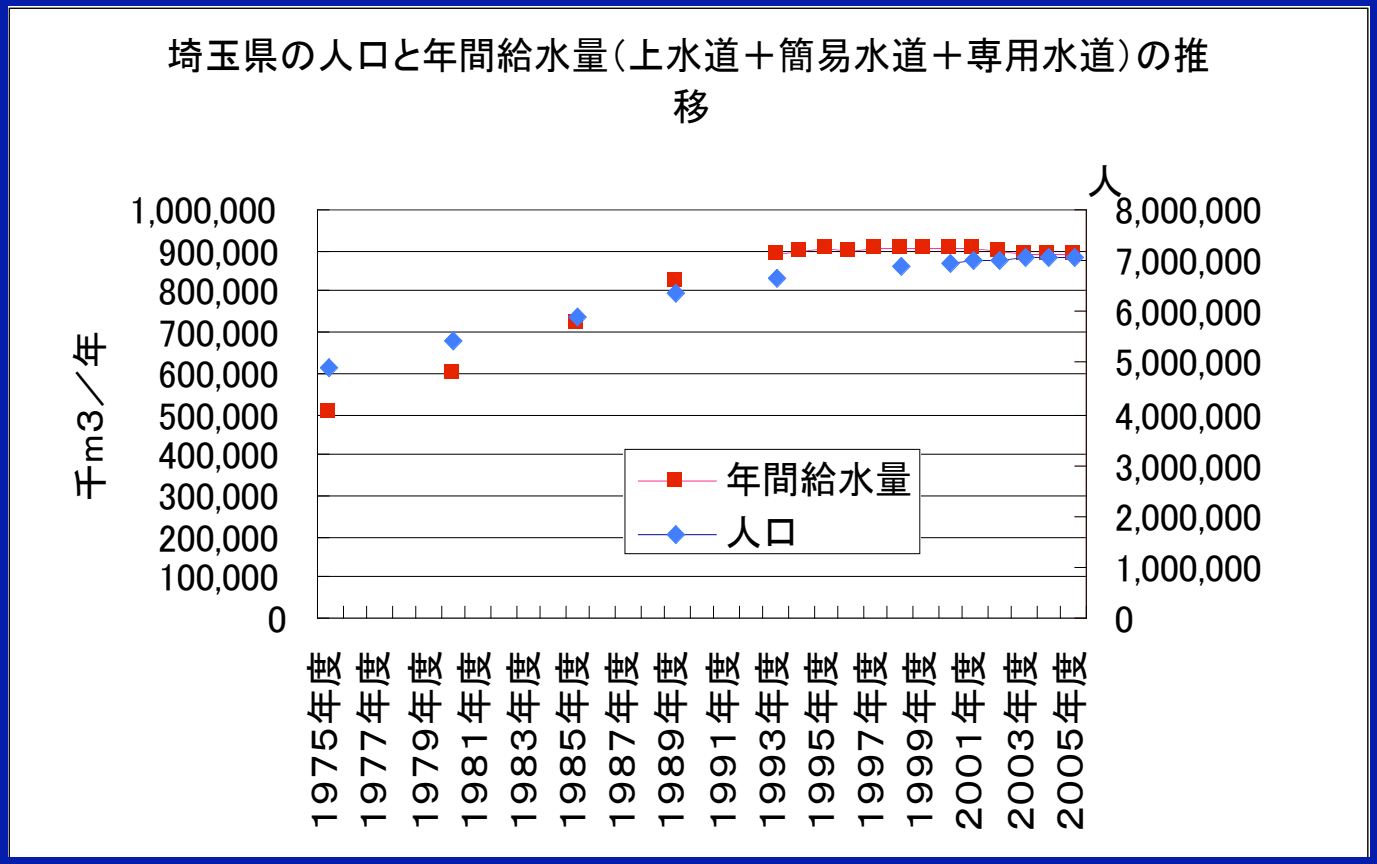
数字は計画高水流量

（利根川は200年に1回の洪水

利水上無益である

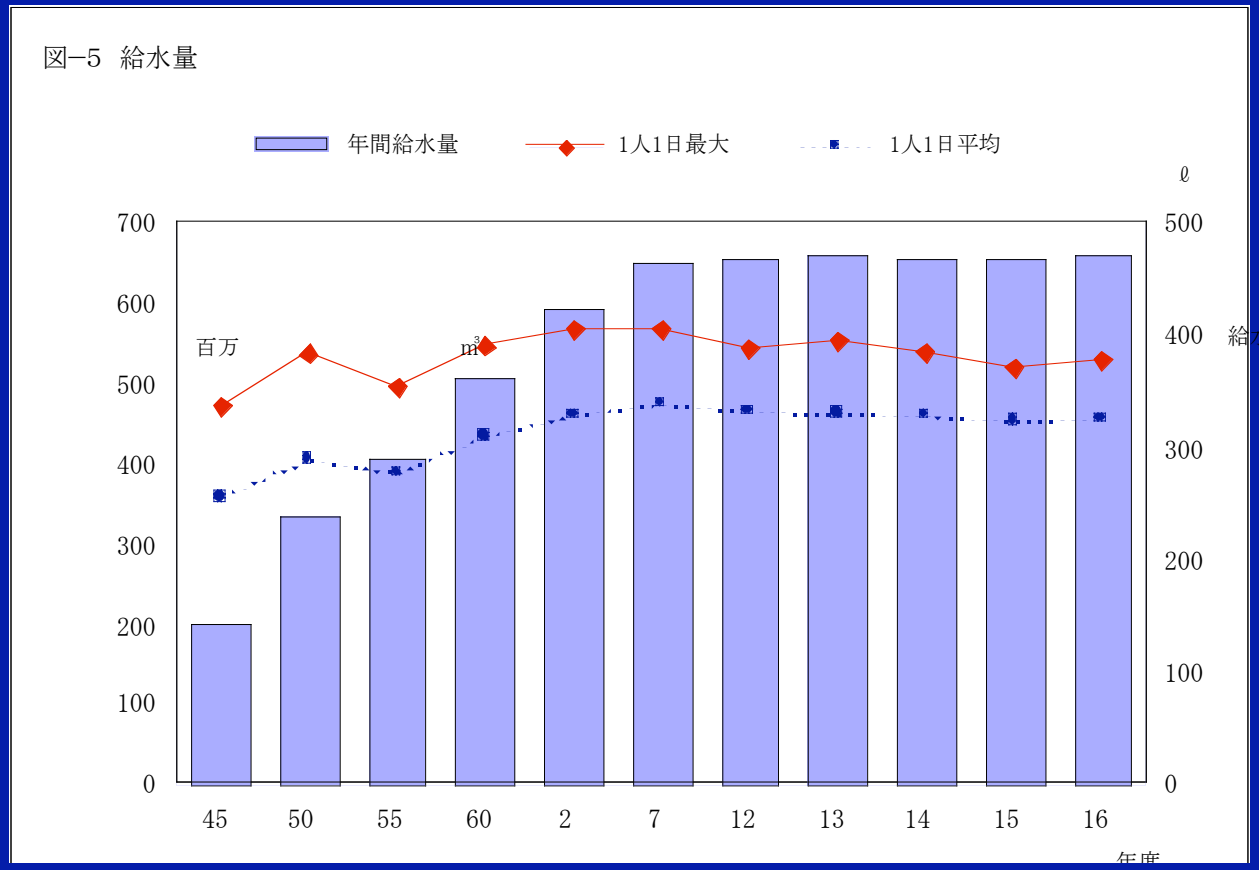
- １９９４年に東京都が思川開発から撤退した。ダム下流の自治体に新規の水需要はない。
- そもそも思川開発事業計画による目標利水安全度は、１／５にすぎない。
- 栃木県では広域水道事業計画がない。水利権を確保しておくだけ。

埼玉県の水需要は減少、人口は微増



埼玉県のホームページから

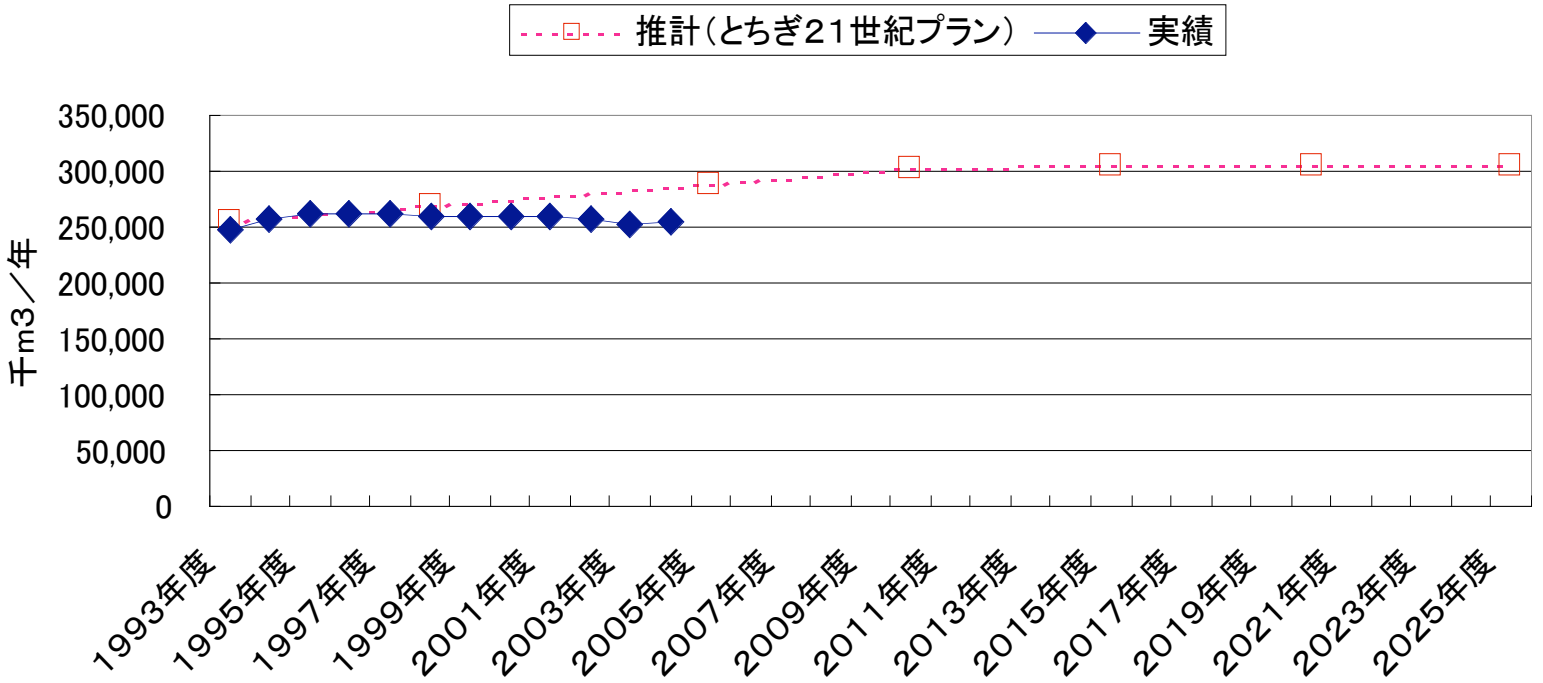
千葉県の上水道年間給水量は横ばい、１人当たり給水量は減少傾向



グラフ：千葉県のホームページから

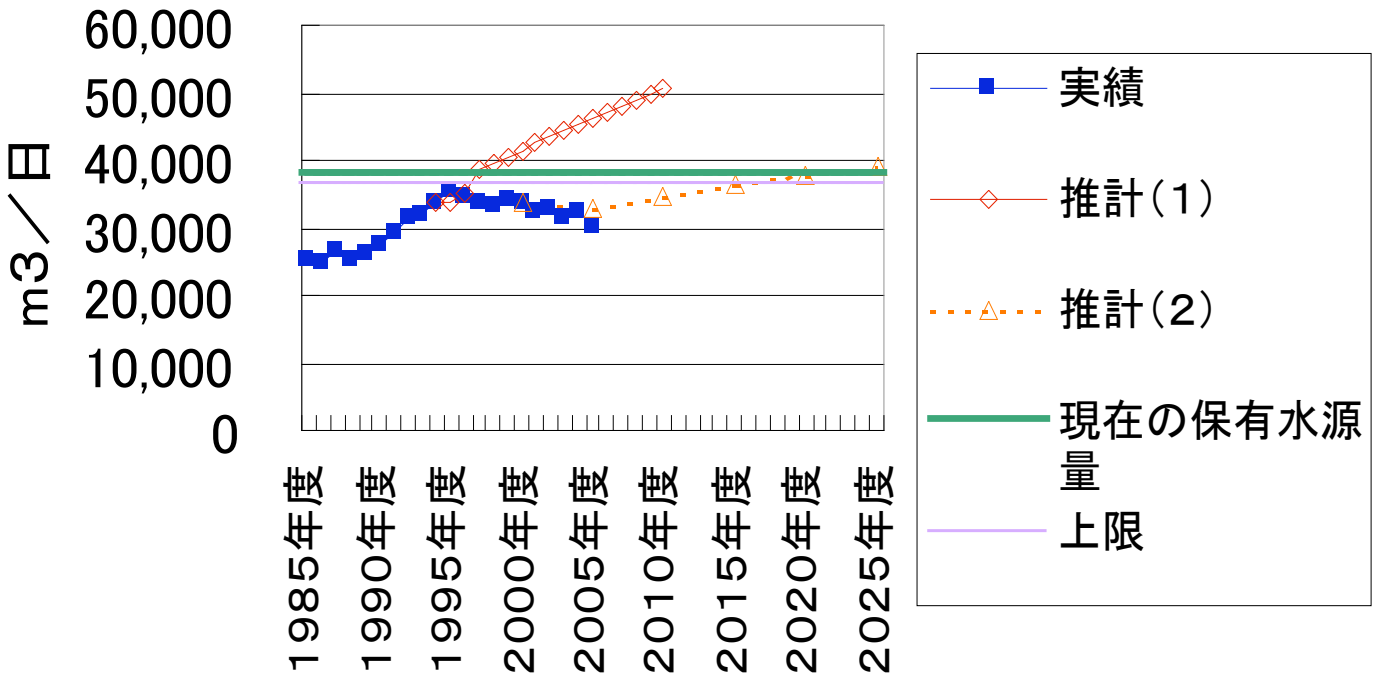
栃木県の水需要（上水道＋簡易水道）も減少

図３　　２　栃木県の水需要（上水道と簡易水道の年間給水量）の実績計



鹿沼市の推計は過大であり、水源は不足していない

図5　　28　鹿沼市上水道1日最大給水量の実績と



にもかかわらず思川開発に０．２ｍ３／秒で参加した

さらにおかしいのは鹿沼市の取水地点は大芦川

独立行政法人水資源機構思川開発建設所のホームページから

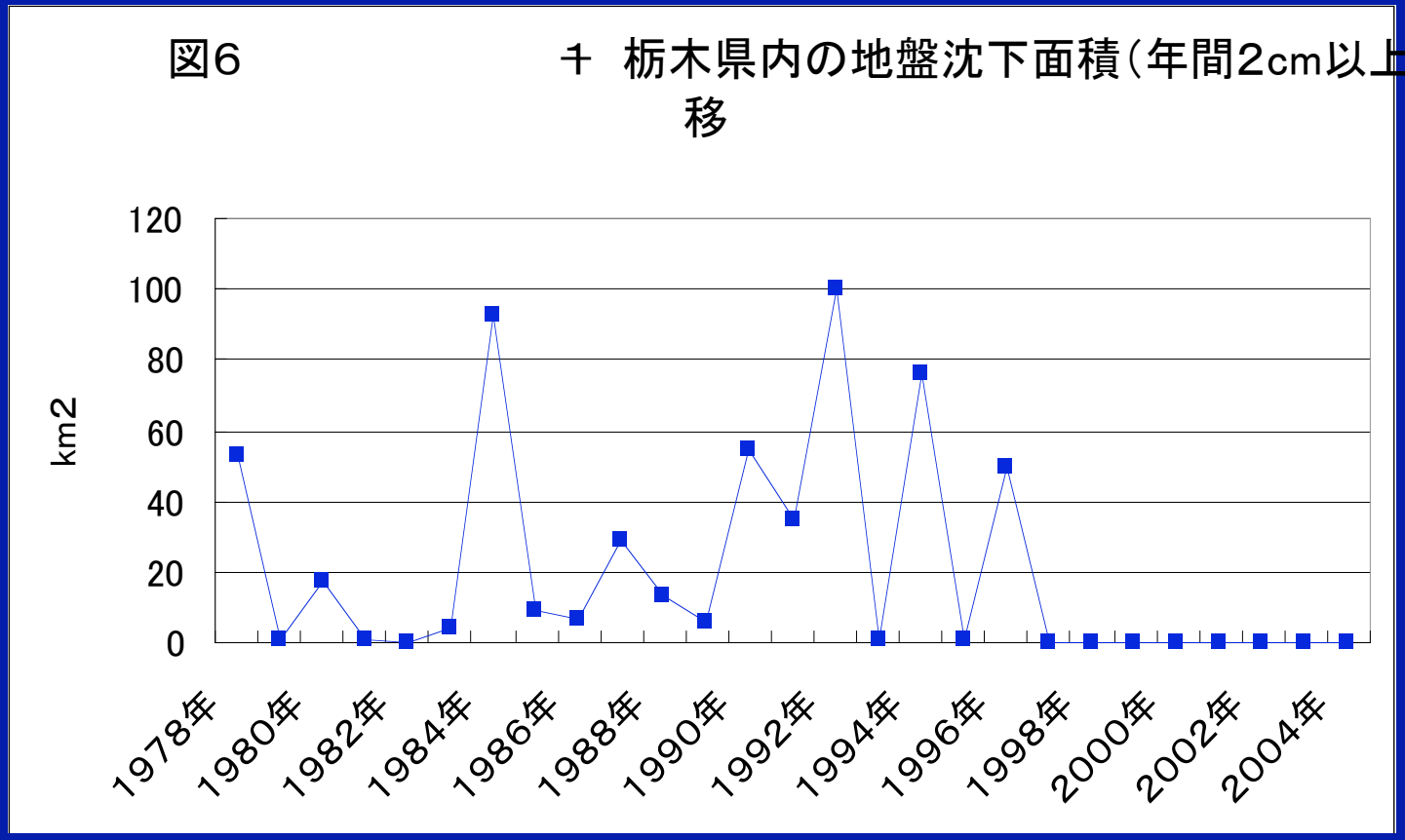
地盤沈下対策にならない

栃木県では水利権確保の理由の半分は地下水源の放棄

表４－１　思川開発事業に係る新規水需要量の内訳

	市　町　名	要望水量	地下水水源転換量	新規水需要量
		(m^3／日)	(m^3／日)	(m^3／日)
栃木県を通して思川開発に参加	栃　木　市	8,800	8,300	500
	鹿　沼　市	19,267	13,800	5,467
	西　方　町	480	0	480
	壬　生　町	2,858	2,000	858
	石　橋　町	3,002	2,000	1,002
	国分寺町	2,000	944	1,056
	野　木　町	364	0	364
	大　平　町	2,848	748	2,100
	藤　岡　町	2,048	689	1,359
	岩　舟　町	1,500	1,500	0
	小　　計	43,167	29,981	13,186
	栃　木　県	27,726	10,446	17,280
計		70,893	40,427	30,466
単独参加	小　山　市	18,948	1,400	17,548
合　　計		89,841	41,827	48,014

そもそも、栃木県南の地盤沈下は沈静化している



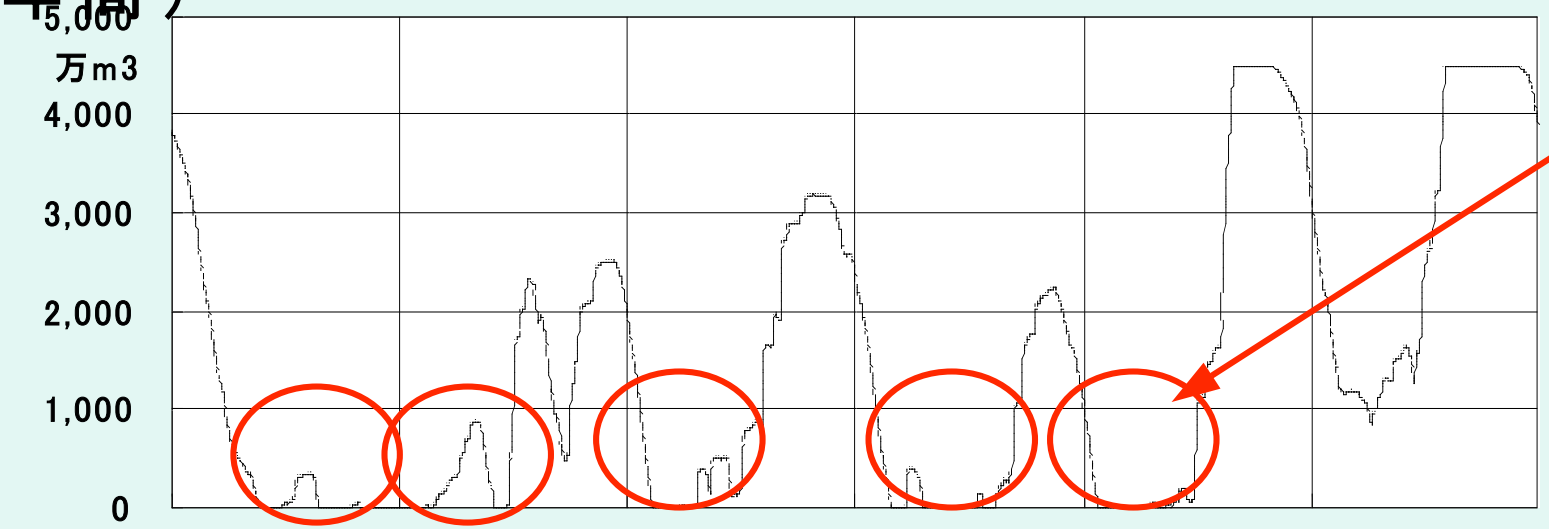
栃木県地盤変動調査報告書から

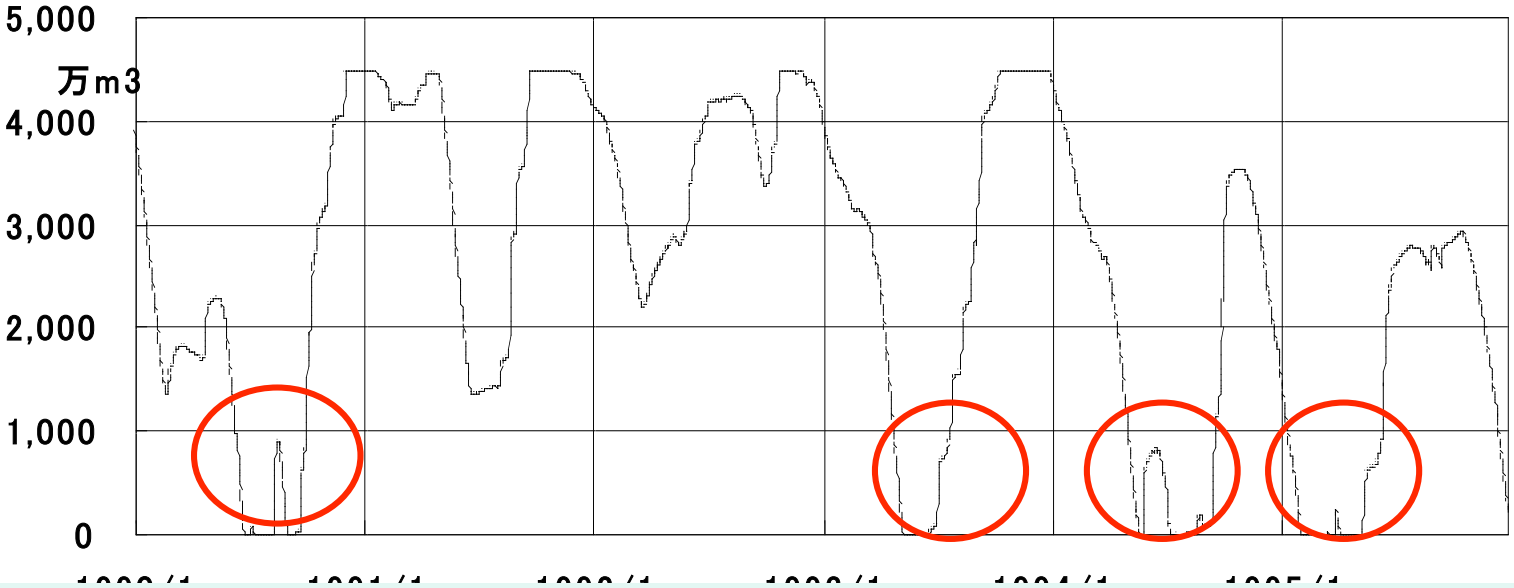
保全地域の地下水採取量がわずか１％減るにすぎない

- 保全地域（小山市一部、野木町、藤岡町）での地下水採取量（２００４年度、農業・工業用水を含む）は、２０３，０６８㎥／日
- 保全地域で思川開発事業によって表流水に転換する予定の水道用地下水 は、
  ２，１００㎥／日 程度
- ２，１００÷２０３，０６８＝１．０％

水収支が
成り立たない

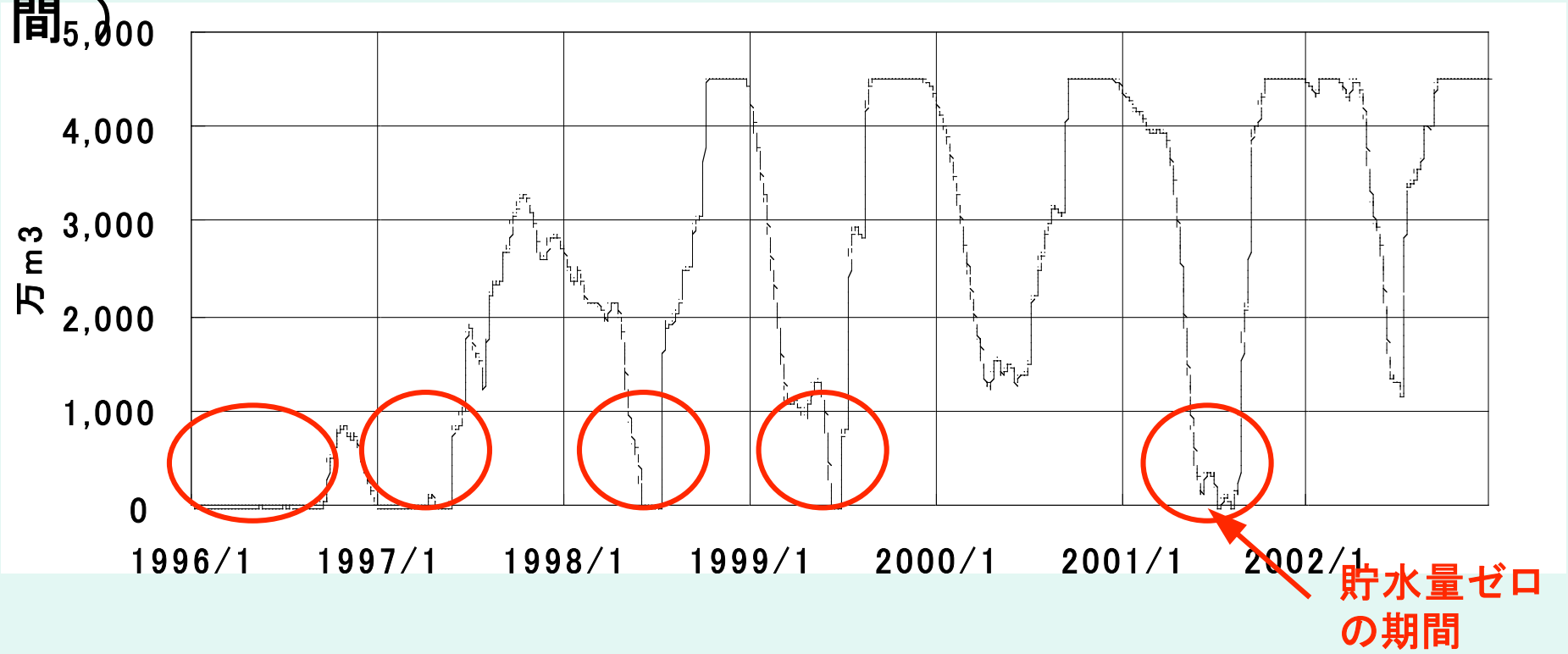
南摩ダムの運用計算結果（原告）　1984年～2002年（19年間）





〔注〕最低貯水量をゼロとした場合の計算

南摩ダムの運用計算結果（原告）　1984年～2002年（19年間）



最近１９年間の流量データで南摩ダムの運用計算を行ったところ、

　１４年間には貯水量ゼロの期間があり、頻繁に空になり、ほぼゼロの期間が9ヵ月におよぶ年もある（1996年　）。

南摩ダムによって絶滅危惧植物等が絶滅するおそれがある

- トキホコリ
- セツブンソウ
- フタバアオイ
- ギンバイソウ
- ヤワタソウ

※鳥類ではオオタカも危機にさらされる。

セツブンソウ・・・絶滅危惧Ⅱ類

（１９９９．３．６上南摩町で撮影）

思川開発事業計画にとって
不都合な真実

①治水上無益である

②利水上無益である

③地盤沈下対策にならない

④水収支が成り立たない

⑤環境を破壊する

⑥国と地方の財政破たんを促進する

⑦地域社会を崩壊させた

何もしないことが税金の無駄遣いを助長することになる

終